

第3部

指導に使える 役立ち資料集

よくある疑問 Q&A

Q 最近ITではなくICTと言われるようになりましたが、このことと情報モラルとはどのような関係がありますか。



A ITは「Information Technology」の略で「情報技術」と訳されます。ICTは「Information and Communication Technology」の頭文字をとったものです。これは、もともとイギリスなどで使われていたもので、情報通信技術と訳し、インターネットなどの通信技術を含んでいます。

しかし、ITとICTには、大きなニュアンスの違いがあります。従来のITではコンピュータなど電子情報機器の活用に視点が置かれていたのですが、「C」がつけ加えられることにより、コミュニケーション＝人との関わりという視点が新たに加わったと考えることもできます。

つまり、ITからICTへの移行は、通信を介して人と人とがコミュニケーションすることを前提とし、人と人との関係性の構築や情報社会での望ましい行動といった社会科学や人文科学の領域までもが視野に入ってくるわけです。当然ながら情報モラルもICT活用の重要な課題になります。

ITからICTへの流れは、情報通信ネットワークが従来のハードウェアから、人と人とを媒介するメディアへと歩みを進めることを意味しているのです。

Q コンピュータの環境がなくても情報モラル教育は可能ですか。



A もちろん可能です。社会の情報化に伴って出現する新たな課題に向かい合う中で、より正しい判断やよりよい人間関係の構築をめざすことが情報モラル教育の目的です。したがって、情報モラル教育はすべての教育活動の中で実践することが求められます。コンピュータのあるなしにかかわらず、教師が情報モラルに関する問題事例を授業の中で効果的に紹介することによって、より現実に迫る課題提起ができると思います。むしろ、コンピュータがない方が、問題を焦点化できる場合も考えられます。

小学校の中学年ではペープサートや紙芝居などを用意して物語化することで、登場人物に同化し、登場人物の気持ちや立場になって問題事象をとらえることができるでしょう。

小学校高学年や中学生では、現実に起こった様々な事件を新聞の切り抜きなどで取り上げ、ケーススタディーとして情報モラルの事例研究を行うことが可能です。この場合も、通常の教室で可能です。このような、取り組みを積み上げることによって、実際にコンピュータを使う場面でそれらの学習が生かされると考えられます。